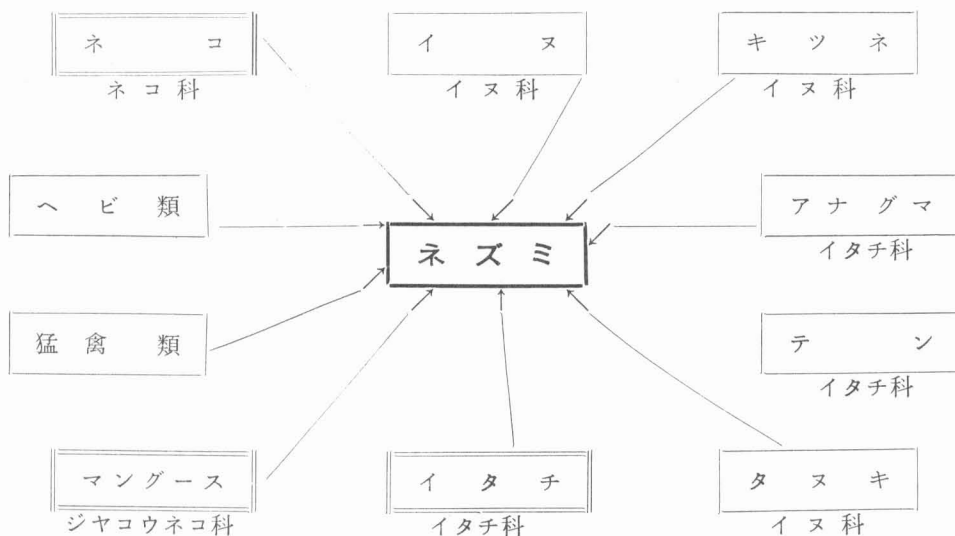


琉球大学学術リポジトリ

イタチによる野ネズミの駆除

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21029

ネズミを狙う食肉動物



イタチによる野ネズミの駆除

(九州大学農学部動物学教室 内田照章博士による三井物産砂糖部メモより)

(1) 天敵によるネズミ駆除効果は、その土地の地形、立地条件、植物により相違する。例えば小島の場合には成功しても広域に亘る場合はその効果は捉え難い。

(2) 九大全教室により延岡市サギ島において、イタチによる鼠害防止の実験をなし(延岡市サギ島における鼠害参照) 約100haの島に23匹(雌19, 雄4)を放したところ約半年でネズミが無くなった。また、喜界島(1942年)、奄美大島(1954年)、徳之島(1954年)、沖永良部島(1952年)、与論島(1956年)などにも移入されているが、喜界島、沖永良部などの小島ではかなりの好結果が出ている。

(3) 沖縄では1910年東大渡瀬教授により印度ガンジス河流域産マングースを20匹移入された。

この移入はハブの食物である野鼠をマングースにより駆除すれば、ハブの駆除にも通じるだろうとのことで試みられたとのことである。

(4) イタチとハブは争う。勝負は互角でどちらが勝とは云えない。

(5) 鶏など家禽にも害を加えるが、これは野ネズミによる損害との経済的比重により判断する外ない。

(6) 九州産イタチは朝鮮イタチと日本イタチで何れも北の動物であるが、移入するとすれば日本イタチがよい。

移入数量は多い程良いだろうが、30~50匹程度では2~3年、5年或は10年位では目に見えた効果は期待出来ないではないか(イタチは年1回3~4匹、ネズミは生後3ヶ月すれば成育し、年1~2回、6~7匹増殖するため)。

(7) 従って殺鼠剤による駆除と併用するなど沖縄全島の強力な対策を講じないと大きな効果は期待出来ないと思う。

殺鼠剤としては最近ノルボルマイダ(商品名ラチケート)というネズミのみ殺し他の家畜には無害のものが出来た。

(8) イタチは保護動物であるため自由な捕獲は出来ず、県經由農林大臣宛申請許可取付け県指定の捕獲人が捕獲する。価格は1匹¥1,700程度の模様である。